

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272100221		
法人名	社会福祉法人 旭悠会		
事業所名	グループホーム メタセ		
所在地	千葉県習志野市新栄1丁目10番2号		
自己評価作成日	平成26年10月9日	評価結果市町村受理日	平成27年3月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマンネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成26年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族参加型のイベントの計画、地域活動への参加など、刺激のある生活環境を整えるよう努力をしています。季節を感じられる環境づくりや、季節の食材を使用した調理で四季を感じてもらえるような生活作りを目指しています。
機能低下防止のために散歩や近隣への買い物、毎日の家事など、一人ひとりの「できること」に目を向け、個別の生活支援を提供しています。
平均年齢は88.4歳ですが、元気に生活する力を最大限に引き出せるよう、家庭的で居心地の良い場を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地内にある併設施設と一体となった年間研修計画に基づき、基礎研修・向上研修・OJTなど職員の能力に応じた研修を実施している。食事作りや片付け掃除など入居者一人ひとりが出来ることを自分の役割として当たり前のように行っている。散歩を日課とし、近隣への買い物や地域活動への参加など五感を刺激し機能低下を防止する個別支援を行っている。研修などでスキルを身につけた職員が「入居者一人ひとりの人生経験と尊厳の重視・自由な生活・能力を活かした役割分担・家庭的な雰囲気です自立した生活」との理念をチームワーク良く実践している。平均88歳とは思えない入居者の元気で明るい生活ぶりが印象的であった。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに運営方針と共に介護理念を掲示することで共有、実践につなげている	運営方針、介護理念と「居心地の良さ・五感を刺激するケア・ほめるための要素の提供・人生の質を高める」とのケアの基本方針を掲示している。基本方針に基づく日々のケアを通して理念の実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	連合町会主催の地域行事への参加や近隣幼稚園との交流、近所への買い物や散歩での挨拶、運営推進会議等を通し地域交流をしている。	近隣幼稚園との交流、中学生の職場体験や認知症研修、町会主催のお祭りなどの行事への参加、日頃の散歩や近所での買い物、図書館での地域の方との交流、地域のボランティアの方の活用など、地域の一員として日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市で開催された認知症メモリーウォークに参加したり、認知症サポーター養成講座の講師としてキャラバンメイトを派遣したりしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではグループホームの現状を報告し外部出席者から質問やアドバイスを頂き、情報交換などを行っている	介護相談員、地域包括職員、入居者の参加を得て、2ヶ月に1度定期的開催している。2ヶ月間に実施した支援活動を詳細に報告し、時にはマナー向上委員会の取り組み状況なども報告し、出席者の評価や意見要望をお聞きし、サービス向上に取り入れている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のキャラバンメイト連絡会に参加したり市担当者と連携を取って協力関係をとっている。	高齢者支援課担当者や地域包括支援センター担当者とは常に連絡を取り合っている。また市のキャラバンメイト連絡会にも参加しており協力関係が築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で開催される研修で学んでいる 身体拘束に関する資料を部署内に置き理解している	身体拘束・高齢者虐待防止に関する指針や入居者身体拘束管理規定を整備している。施設内研修で対象となる具体的な行為などについての理解を図り、場面ごとに想定した禁止ワード一覧で、日常のケアの中での言葉による抑制には特に注意を払うようしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で開催される研修で学んでいる 虐待の防止に関する資料を部署内に置き理解している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で開催される研修で学んでいる		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書・重要事項を含め、丁寧に説明をして同意を得られるようにしている 改定等の場合書面・口頭にてご家族へ十分な説明を行っている		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日常の集団・個別コミュニケーションで要望・意見を伺い、家族には家族参加型の行事や面会時に意見や要望を伺っている。	3ヶ月に一度のメタセ新聞のほか、毎月入居者のホームでの様子を詳しくお知らせしている。家族参加行事の案内やご家族の来訪をお待ちしていますのメッセージも出し家族の来訪を促している。面会時には家族に良いことも悪いこともお話することによって、意見や要望を話し易い雰囲気を作っている。年2回の大掃除には家族にも参加して頂く等、家族も一緒に運営に参加して頂く工夫をしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のグループホーム会議にて意見交換をしている常時職員間のコミュニケーションを密に取っている	全員参加の毎月のグループホーム会議では意見要望や提案などが積極的出され、床の汚れ対策のワックスがけなど具体的な意見を取り入れ改善に繋げている。職員一人ひとりが係や委員会、プロジェクトに参加して意見や提案をする機会ともしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップシートにて個々の目標を把握し、必要に応じて面接をするなど環境や設備の改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として年間計画の中で研修・勉強会などで学んでおり、外部の研修にも参加している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員のみでの交流はしていないが、ご入居者同士の交流を近隣のグループホーム(あかしゃ)(谷津苑)としている。今後は職員同士の勉強会なども開催していく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からご本人についての情報を聞いたうえで本人とマンツーマンなどゆっくり話す時間を設け、コミュニケーションを取り、話しやすい環境・関係作りに努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の面接の際にご家族が困っていたこと・困っていること・今後の不安に思うことを傾聴し信頼関係が築けるように努力している		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を伺い、必要ならば他サービス等の説明を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・調理など家事全般を入居者同士が一緒に行うことで対等な立場を保っている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居してもご家族と外食・外出・外泊したりする等本人と家族の絆を大切にしている。病院受診はご家族に対応してもらっている。ご家族とは情報交換を口頭や電話にて密に取っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力のもと今まで住んでいた家に帰る・お墓参り・外泊等馴染みの習慣を継続できるように支援している	生活圏の馴染みの商店街やスーパーでの買い物、散歩時に縁側で近所の馴染みの人とお茶をしたり、元居た併設施設の馴染みの職員との交流や近所の神社への初詣などの支援をしている。また家族の協力で住んでいた家への外出や外泊、行きつけの美容院や外食など、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・談笑・散歩時など日々のコミュニケーションの中で利用者同士の関係を把握し必要に応じて見守り・声掛け・介入を実施しているが、決して無理強いはいしないよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した利用者及び家族との継続的なかわりはないが、相談等の受け入れは行っている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について話し合い、日々のかかわり、申し送りの中で把握することに努めている	お茶の時間やマンツーマンでの散歩や入浴中などに、本人にやりたいこと、好きなこと、やっていたことを聞き、生活の中でどのように取り入れていけるか職員の意見を聞き検討している。家族が雑談しながら本人に昔のことを聞いてくれることもある。入居者が笑顔でいられるよう支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族からの情報を頂き、ご本人との日々の会話から、これまでの生活や馴染みの暮らし方を把握している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主に日々のケース記録やミーティング・申し送り等で情報を共有し、現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時に本人の様子等を報告・相談をし、意見を頂く。 職員は日頃から情報交換を密に行い、ケース記録・カンファレンス意見を出している	プランは医師や薬剤師のアドバイスを反映したものとなり、家族にプランの説明が必要があれば変更している。3か月に一度もしくは入居者の状況が変わった時にケアカンファレンスを行っている。毎月のグループホーム会議では職員全員が参加し、利用者の情報を共有している。出勤時には介護記録、業務日誌、連絡帳を全職員が目を通して、家族とは普段から頻りに連絡を取り意向を聞いている。看護師のアドバイスも取り入れるなど現状に即した介護計画作成に繋がっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の暮らしの様子や気づきを記入し、情報の共有をしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が発する様々なニーズに対応し、職員が柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族から情報を頂き、個人に合った地域資源を活用できるように支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医・医療機関にて家族の付添で受診しているが、必要に応じて施設での様子を書面や同行受診にて医師に伝える等適切な医療を受けられるよう支援している	全ての入居者が元々のかかりつけ医に診てもらっており、受診は家族が同行している。必要な時にはホームでの様子を書面や同行受診をして医師に伝える等適切な医療が受けられるよう支援している。受診報告書で、受診理由、状況、診断結果および医師の指示、薬の処方情報を職員間で共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の状態は併設の看護師に相談を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に備えての関係作りは積極的に行っていないが、入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、併設の特養の提携病院へ相談等が可能な状態にしている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合等の説明を行い、納得してもらった上で、その状態になる前にさまざまな情報交換・話し合いをしていけるような体勢づくりをしている。	契約時に「重度化対応指針」を説明し了解して頂いた上で入居して頂いている。併設特養を申し込んでいる入居者家族も多く、他施設の紹介も行っている。重度化する前から常時話し合う体制が出来ており、次の生活拠点の確保とスムーズに移行ができるよう支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応の研修は行っている 部署独自で緊急時の対応のシュミレーションを行なっている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害を想定した訓練は年3回行っている 訓練には地域の方にも参加して頂き協力体制を築いている	個人ごとの緊急ファイルと緊急用の薬を袋にまとめ持ち出せるよう用意している。施設の損壊があれば併設施設に移る。夜間は法人内の宿直職員の他に、10分で7名の職員が駆けつけることができる。法人が日大と「災害時における入居者等の受け入れに関する協定書」を結び、日大実務校舎グラウンドを避難場所として町会の協力のもと避難する。訓練では、日大の寮生4～5人と町会の人に参加し、入居者が道路を横断する際に車を止め見守りしてくれた。消防設備点検も行っている。備蓄は三日分を用意している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でお互いの言動を指摘し合い、利用者のプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている マナー向上に努める目標を各自記入しスタッフルームに掲示している。	マナー向上プロジェクト(現マナー委員)が作成した禁止ワード一覧を手に取り見やすいところに置き、新人研修の資料ともしている。せかせかしないように職員には「急がなくてよい」と伝えている。誰もが心地よく思うような言葉づかいをし、日頃から清潔感を保てるよう配慮している。夕方から夜間にかけて声のトーンを落として対応している。	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間以外は本人の望むことを支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一部の入居者は、その日に着る服をご自分で選んでいる 迷っている・選択できないようであれば一緒に選ぶ等楽しみながら支援している		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に調理・盛り付け・片付けを行っている 食事中は会話が絶えず明るく楽しい食卓になっている	ごはん味噌汁、おかず一品を調理しており、利用者も切ったり、揚げたりと調理している。母の日の特別献立、雛祭り御膳、敬老御膳、紅葉膳、出前寿司や夕涼み会、ケアハウスと合同の餅つきや、おふくろの味と称し入居者と調理をする新年会など、月に一度はイベント食がある。おやつでは手作りのケーキやチヂミを楽しみ、梅や紫蘇ジュース、ゆずや柿ジャム、マーマレード、ミカンゼリーなどを作る。月に一度は少し豪華なおやつ会となり和菓子やパフェを提供している。外食も月に一度あり、食を楽しむ機会が多い。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主菜等食事の一部は併設の厨房より提供 食事・水分の摂取量が少ない場合は、時間をずらして個別に提供するなどしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアへの声掛けを行っている。 本人の口腔内の状態や能力に応じて職員が介助させていただく事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握した上で定期的なトイレ誘導の声掛けや本人に合った介護用品を使用し、本人の能力に応じて介助を行っている。	排せつで自立している方が5人おり、その他の方には声掛け、見守り、夜間手引きを行っている。夜間も排せつ時間をすべて記入している。一人一人のパターンを職員で共有している。一人ひとりの能力に応じてトイレでの排泄が続けられるよう支援している。体調の悪い時にはポータブルの使用もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や運動、水分摂取にてなるべくトイレにて自然排便できるよう支援しているが、自然排便が困難な場合はかかりつけ医師と相談し、下剤等の処方・服用も検討する		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調とタイミングに合わせて声掛けをし、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。	ゆず湯、しょうぶ湯を楽しみ、入浴剤も使用している。一日おきに入浴をする方や、ご自分の石鹸や洗面器を使用する方もいる。入浴後には保湿も行っている。脱衣所と浴室にはナースコールが設置されていて安全性にも配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前に他者と談笑しながら温かい飲み物を飲むなどをし、安心して頂けるよう支援している。不安を訴えてこられたら傾聴する等、個々の状況に応じて対応している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋の内容を確認、把握している。誤薬の無いように2人以上の職員でチェックをしている。服薬後体調の変化に気をつけ変化があればケース記録に記入し主治医に情報提供を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を把握し、楽しく役割分担ができるように支援している 外食や外出の際はどこへ行きたいか、何を食いたいかなど皆で話し合っ決めて決めることもある		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を尊重し、職員と家族が協力して支援している	晴れていれば、敷地内を散歩している。外出用の杖、車いす、歩行器が揃えてあり、気軽に出かけられるようになっている。散歩や買い物するときには近隣の人が声をかけてくれる。入居者宅の縁側でお茶を飲んだりすることもある。家族と外食や外泊する人もいる。暑い日には帽子と首に保冷剤で出かけ、日大グラウンドで野球観戦することもある。初詣、ビール工場、シルバー合唱祭、森林公園、認知症メモリーウォーク、谷津干潟、デイ納涼祭、佐倉ふるさと広場、フラワーミュージアムなどに出かけた。図書館に定期的に通う人が3名ほどいる。外出の機会は多く用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っているが、個別に小遣い程度のお金を所持している方もいる 買い物では、職員見守りのもとレジにて支払をして頂くこともある		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人・親戚から手紙が来ることもあり、返事を出したりもしている。 毎年家族には年賀状を出している。 誕生日など家族から電話があり会話をすることはある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に作った作品・装飾品をリビングや玄関等に飾り季節感などを感じていたくように工夫している	外に防音壁を設置した。外ではいんげん、トマト、きゅうり、ナスなど野菜作りを楽しんだり、洗濯を干したりと出ることも多い。玄関の外と中にベンチがあり、出やすいように歩行器なども揃えてある。リビングの天窓は明るく、洗面スペースが3つと和室があり、季節に応じた飾りつけがされている。調理の時などは机を移動し利用者が安全に動きやすいよう配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは利用者同士会話を楽しむ姿、マッサージチェアで独りになりゆっくり過ごされる姿が見られている 天気の良い日は玄関前ベンチで日なたぼっこをしながらお茶をすることもある		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた馴染みのある家具や本人の思い出の品を持ってきていただき、居心地の良い環境づくりをしている	スプリンクラー、エアコン、クローゼット、換気扇、ナースコール完備の二重窓となっている。仏壇、机、いす、タンス、ベッド、テレビ、ぬいぐるみ、本などを持参され、写真を飾る部屋や、手作りの手すりを使用している部屋もある。居室入口は毎月季節に合わせて作成する手作りのネームプレートとなっている。机の脚にガードをし安全に配慮している部屋もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に動いていただけるようになってる 場所を示すプレート等を取り付け、混乱せず生活して頂けるように工夫している		